

ごあいさつ



林 文子

横浜市長

(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー 会長

横浜の開港を市民の皆様と一緒に祝う「横浜開港祭」は、今年で36回目を迎えます。市民の皆様をはじめ、地元企業、団体の皆様の多大な御支援、御協力により、活気あふれる一大イベントとなりましたことを心より感謝申し上げます。

まさに横浜の“開港月間”と呼ぶべきこの時期のフィナーレを飾る「横浜開港祭」ですが、市民が世代を超えて心を一つにして奏でる大合唱など、子どもから大人まで誰もが楽しめる魅力いっぱいの催しが数多く開催され、たくさんの賑わいが生まれます。

今年も、開港の地である本市ならではの「横浜開港祭」をより多くの方に知っていただき、ご参加いただけるよう盛り上げてまいります。皆様のなお一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。



森 大樹

第36回横浜開港祭協議会 会長

(一社)横浜青年会議所 第66代理事長

例年多くの市民の皆様にご来場を頂いております横浜開港祭は、お陰様で、本年で36回目を迎えることとなりました。まずはご支援・ご協力を頂いております関係者の皆様、市民の皆様一人ひとりに、心よりの御礼を申し上げさせて頂きます。

横浜は、1859年(安政6年)開港以来、全国各地からこの国を変えたいという想いをもった若者が集い、開港という名の変化を積極的に受け入れ、既存の価値と新たな価値との「共振」が生まれた近代日本発祥の地であります。「ひと」と「もの」の交流拠点として、今日の国際港都として成長を遂げた街であるという原点を改めて認識し、横浜開港祭を通じ、横浜開港の歴史や横浜のイノベーティブな魅力を、市民の皆様や次世代を担う子供達にしっかりと伝えていきたいと考えています。

本年は、6月2日(金)、3日(土)の2日間、“Thanks to the Port”「開港を祝い、港に感謝しよう」～開港からの英知・想いを未来へ繋ぎ次世代との共鳴を広げる市民祭～をテーマに開催して参ります。横浜の開港からの伝統を継承し、市民の皆様との共鳴により横浜開港記念日に地域に根差した、にぎわいを創出できるよう、「第36回横浜開港祭」に向けて、全力で取り組んでまいります。

何卒、皆様方の深い理解と、変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



2017年度 第36回横浜開港祭 開催実施要項

“Thanks to the Port” 「開港を祝い、港に感謝しよう」

～開港からの英知・想いを未来へ繋ぎ 次世代との共鳴を広げる市民祭～

1.開催主旨 日本の開国の先駆けとして開港し当時人口482人だった小さな村は、その歴史から文化・経済の交流拠点として発展し、158年の時を経て人口約373万人を有する大都市となり、現在も開港当時のスピリットを引き継ぐべく、世界の人々が集まる交流拠点都市を目指し発展を続けております。1981年第1回横浜国際デー“プレ横浜どんたく”として産声を上げ、「開港を祝い、港に感謝しよう」というテーマの下、市民が一堂に会する「市民祭」として開催されている『横浜開港祭』は本年で36回目を迎えます。夏の訪れるつづる風物詩として定着した『横浜開港祭』の歴史をしっかりと受け継ぎ、時代にあった工夫を取り入れ、まちの活性化に繋げる為に継続していくかなくてはなりません。

第36回横浜開港祭は、6月2日、3日の2日間開催とし“Thanks to the Port”「開港を祝い、港に感謝しよう」～開港からの英知・想いを未来へ繋ぎ次世代との共鳴を広げる市民祭～をテーマとし、これまでの歴史を受け継ぎ、更に発展させて実施する事で、横浜開港祭を未来へ永く繋げて参ります。

我々の原点である港に感謝をし、開港という歴史をしっかりと触れて頂き横浜市民と共に港の誕生日を祝い、横浜の更なる発展に繋がる原動力として参ります。

6月2日の開港記念日は、港の誕生日であると同時に市民の誕生日とも言うべき記念すべき日であります。現在の横浜を支えている大人たち、次世代を担う子どもたち、さらには孫の世代にいたるまで全ての市民が一体となってその誕生祭を共に創り、祝って参ります。

1年に1度、横浜市民としての自身のアイデンティティを実感して頂く日とし、横浜市民として誇りを感じ、笑顔が溢れ未來の横浜を築き上げる次世代へ繋がる『横浜開港祭』を創り上げます。

- 2.開催目的**
- (1)市民と共に横浜開港記念日を祝い、港へ感謝する
 - (2)市民参加型「市民祭」の拡充
 - (3)笑顔あふれる豊かな市民文化の創造
 - (4)港町横浜らしい活力あるまちづくり
 - (5)横浜の観光と経済の活性化

3.開催時期 2017年6月2日(金)、6月3日(土)

4.開催場所 臨港パーク及びみなとみらい21地区、新港地区、その他周辺

5.主 催 横浜開港祭協議会
横浜市 横浜商工会議所 (公財)横浜観光コンベンション・ビューロー
(一社)横浜青年会議所

6.後 援 朝日新聞社横浜総局
アール・エフ・ラジオ日本
NHK横浜放送局
産経新聞社横浜総局
神奈川県
神奈川新聞社
(株)タウンニュース社
tvk((株)テレビ神奈川)
東京新聞横浜支局
ばど(株)
(公財)帆船日本丸記念財団

毎日新聞社横浜支局
(公財)マリンスポーツ財団
横浜エフエム放送(株)
(株)横浜銀行
横浜ポート天国推進連絡協議会
横浜市ケーブルテレビ協議会
横浜市国際学生会館
(公財)横浜市国際交流協会
(公財)よこはまユース
読売新聞東京本社
その他予定(五十音順)

7.協 力 赤い靴記念文化事業団
(協)伊勢佐木町商店街
イセザキモール1・2St
(株)エフエム戸塚
(公社)神奈川県観光協会
(公社)神奈川県産業廃棄物協会青年部会
鎌倉エフエム放送(株)
国土交通省関東地方整備局京浜港湾事務所
(株)湘南平塚コミュニティ放送
第三管区海上保安本部
日産スタジアム
バシフィコ横浜((株)横浜国際平和会議場)
馬車道商店街(協)
(株)ポートサービス
NPO法人ママプラグ

横浜華僑總会
ヨコハマ経済新聞
(一社)横浜港振興協会
横浜高速鉄道(株)
(公財)横浜市体育協会
横浜市町内会連合会
(株)横浜スタジアム
横浜中華街発展会(協)
NPO法人よこはま・七つ星
横浜・八景島シーパラダイス
(株)横浜フリエスポーツクラブ(横浜FC)
横浜マリノス(株)
横浜元町ショッピングストリート
(株)ロイヤルウイング
その他予定(五十音順)





開港記念日の由来

最初に調印された日米修好通商条約では、1859年7月4日に開港することになりましたが、結局アメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスの5カ国すべてに対して旧暦7月1日（現在の6月2日）に開港されることになりました。

もともと神奈川が開港の候補地とされていましたが、東海道沿いで外国人とのトラブルが予想されたため、当時、辺鄙（へんび）で取り締まりやすい横浜の地が選ばされました。横浜には水深も十分あり港として優れていたため、開港後は急速に発展しました。当年の開港当日は特に祝賀行事も行われませんでしたが、1周年にあたる万延元年の6月2日に、山車や手踊りで街中あげて開港を祝ったのが、開港記念日の始まりです。



